

全国みどりと花のフェアかつしか実行委員会

第6回総会の審議・決定について

日時：令和8年8月25日（火）

16時00分～18時00分

場所：ウィメンズパル1階 多目的ホール

議事

- ・議案第8号 花いっぱいのもちづくり 発展の方向性

→

承	認
---	---

主な意見

（委員）

- ・救護対応 23 件及び救急搬送 3 件について、全会場の合計件数か。また、会場別の内訳を伺いたい。

（事務局）

→いずれも全会場の合計件数である。会場別の救護対応件数は、メイン会場が 15 件、新小岩会場が 7 件、曳舟川親水公園広場ゾーン会場が 1 件である。また、救急搬送 3 件は、いずれも新小岩会場における対応である。

（委員）

- ・公式アンバサダーについて、参加者からは、フェア中における活動が見えにくかったとの意見が多くあった。

（事務局）

→公式アンバサダーについては、所属事務所との契約の範囲内で活動を依頼した。事前の情報発信を中心に協力いただいた結果、フェア開催期間中の出演は限定的なものとなった。

（委員）

- ・葛飾にいじゅくみらい公園の特設ステージについて、会場内の離れた場所では、実施中の催しの内容が分かりにくかった。

（委員）

- ・会場周辺で実施したポスティングについて、会場周辺だけではなく、より広範囲に情報が行き渡るよう実施していただきたかった。

（事務局）

→会場付近を通行する方から、何を実施しているのか尋ねられる事例も見受けられたため、駅前でのチラシ配布に加え、会場周辺の住民へ直接情報を届けることを

目的として、開催期間中にポスティングを実施した。

(委員)

- ・ポスター掲示だけでは情報が十分に伝わらない場合もあるため、町会加入者への情報発信手段として、ポスティングと併せて回覧板を活用することも有効である。

(委員)

- ・サステナビリティ戦略の実施結果について、水素燃料の活用等による電力消費に伴う二酸化炭素排出の削減については一定の対策が図られたものと認識している。一方で、花の展示に使用するポットの生分解性素材等の活用については資料に実施結果の記載がない。実際の対応状況と今後の方針を伺いたい。

(事務局)

→ポットについては、予算の範囲内で対応を検討したものの、提案いただいた内容の実施には至らなかったため、記載していない。

(委員)

- ・今回のフェアは、花を中心とした展示が多く、「みどり」の要素が十分ではなかった。今後は東京都との連携を一層強化し、水元公園をはじめとする区内の自然環境を活用しながら、緑を増やす取組を継続していただきたい。

(委員)

- ・メイン会場で小中学生とともに植栽活動を行ったことについて、子どもたちは達成感を得ることができたと思われる。こうした体験を通じて、次世代を担う子どもたちに対し緑や花に親しむきっかけを創出できたことは大きな成果であり、今後も継続していくことが重要である。

(委員)

- ・フェアや「全国「みどりの愛護」のつどい」を通じて、多くの子どもたちが緑や花に触れる機会を得た。また、花壇コンクールをフェアと連携して実施したことで、地域団体の活動が活性化したことも意義深い。今後は、生物多様性や環境への配慮といった視点も含め、継続的な取組として発展させていく必要がある。

(委員)

- ・各課が実施している助成制度等を活用し、みどりや花に関する取組の実践事例を示すことで、地域団体や区民が活動に参加しやすくなると考える。

(委員)

- ・オープニングイベントについては、一般の参加者から見づらかったとの意見もあったため、今後はSNSでのライブ配信やモニター中継など、より多くの来場者に内容が伝わる情報発信の工夫を検討していただきたい。

(委員)

- ・子どもたちや若い世代への情報発信について、学校やPTA等と連携し、保護者向けアプリを活用するなど、より効果的な周知方法を検討していただきたい。

(委員)

- ・フェアのポスターやスローガンについては、区民により分かりやすく伝わる工夫が必要であった。また、区内事業者の参画が十分ではなかったため、区内事業者の育成という観点からも、今後はより多くの事業者が関われるよう検討していただきたい。

(顧問)

- ・サテライト会場周辺の住民からは、フェアに対する評価の一方、会期終了後に花が撤去されたことについて、余韻を残してほしかったとの意見や、事業費に見合う成果であったのかとの意見も寄せられている。

(顧問)

- ・本事業に係る予算執行及び事業効果については、今後の決算審査等において検証していく必要がある。また、来場者数について約70万人との報告があったが、その算定方法についても検証が必要である。

(顧問)

- ・フェアを通じて得られた経験や地域のつながりを一過性のものとせず、地域活動として継続していくことが重要である。各地域において花と緑に関する取組を継続し、本フェアで培われたつながりを今後も活かしていただきたい。

(顧問)

- ・これまでも、フェア終了後にどのようなレガシーを残していくのかについて議論してきた。現時点では具体的な方向性が十分に見えているとはいえないが、事業が終了した今こそ、より多くのものをより良い形で将来世代へ引き継ぐことが重要である。子どもや孫の世代へ何を残すのかという視点を持ちながら、取組を進めていただきたい。

(顧問)

- ・本フェアを通じて、花や緑に関心を持ってもらう機会を創出できたことは成果である。一方で、来場者数や売上げなど、イベントとして課題も見えてきた。今後は課題を整理し、フェアを通じて得られた経験や成果をレガシーとして継承するとともに、多くの区民が緑や花に関心を持ち、地域活動やまちづくりに参加できる取組につなげていただきたい。

以上